

オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2021年10月10日第11号 (通巻17号)
オリーブの会
大阪府豊能郡能勢町平通101-453
tel/fax;072-737-9454
mail; olivenokai_zeytun@yahoo.co.jp
facebook;oribunokai



シオニストの刑務所から6人が大脱獄

9月6日に発覚した、イスラエルでもっとも、厳しい監視体制にあるギルボア刑務所から6人のパレスチナ獄中者が脱獄し、シオニストに衝撃を与え、パレスチナに勇気を与えた。昨年12月から掘り進め、しかも、道具のないなかで、房内のバスルームの下を掘り刑務所外までのトンネルをつくった。しかも、長期に、刑務所当局に発見されることがなかった。イスラエルは、外部からの支援があったとかの情報を流したが、この大胆な行動は、獄中者自身で実行をしたものであった。そのため、イスラエルの名誉をかけた必死の捜索によって比較的短期間に拘束された。

この戦いは、エルサレムの剣作戦の勝利、エルサレムのシェイクジャラとジャバル・サビをめぐるベイタの闘いなどの、西岸各地での闘いが拡大している中で行われ、パレスチナの民衆を鼓舞した。それは、シオニストの占領と抑圧に対して、不屈に戦うパレスチナ民衆の意思を示した。

イスラエル占領軍は、自由を勝ち取った獄中者の捜

査に自治政府の治安部隊に協力を要請している。自治政府は、占領当局との治安共同の再開を行っていたために、当然のこととしてであった。

イスラエルとのオスロ合意で期待されたのは、パレスチナ人の手でパレスチナ人の闘いを弾圧することであった。自治政府が、オスロ合意に従っている間におこったことは、イスラエルは、西岸での入植地を拡大し、エルサレムを併合することであった。暫定自治政府は、暫定のままであり、最終的な地位交渉も行われることもなかった。

そして、イスラエルは、右傾化を進め、二国解決方式の立役者であった労働党は、少数政党になり、右翼政党が多数を占める政府を続けてきた。かれらにとっては、二国解決方式などはありません、パレスチナを独立させることは認めないものであった。これは、イスラエルの世論の右傾化を反映している。

トランプの時代には、さすがの自治政府も、イスラエルとの共同を否定せざるを得なかったが、米国がバイデ

オリープの会通信 第11号(通巻17号)

ン政権になったとたんに、再び交渉への望みをかけ、イスラエルとの治安共同を復活させている。

自治政府は、選挙を行うことも決めたが、米国、イスラエルが反対し、アッバース大統領は、エルサレムでの選挙をイスラエルが認めないということを口実に延期をした。米国、イスラエルが選挙に反対した根拠は、ハマスが勝利することは確実であったためである。アッバース大統領、自治政府は、パレスチナ民衆の支持を失っている。パレスチナ諸政党は、延期を批判した。

米国とイスラエルが避けたいのは、ハマスがパレスチナで力を持つことであり、自治政府を通した、懐柔策を出してきている。

イスラエルのベネット政権は、明確にパレスチナとの交渉を否定しており、彼は、前政権と同様に、アラブ諸国との正常化による和平であり、パレスチナとの和平はその課題にはいっていない。それは正常化策動の継続である、最近もイラクのクルド地区で、部族長を集めた会議で、正常化をもとめる決議を採択した。もちろんこの会議は、イラク政府が関与した正式のものではなく、イラク政府は、参加者を逮捕すると述べている。そのあとに、元米国中東特使のデニス・ロスが、平和が第一と正

常化を後押しする発言をおこなっている。

米国は、ベネット・バイデン会談をおこない、30億ドルの軍事援助、10億ドルのアイアンドームシステムへの援助を、決定した。

こうした状況の中で、不可能とされたイスラエルのハイ・セキュリティ刑務所からの脱獄は、パレスチナ全体の士気を高めた

自治政府のアッバース大統領は、国連総会の演説でイスラエルが二国家解決を否定するなら、全パレスチナで平等の権利を持つ1国家2民族にすべきとし、67年国境に1年以内に撤退しなければ、イスラエルを承認とリけすと主張した。交渉による解決が望めないなかでの叫びとなったよう。この演説は、選挙の部分を除いて評価を受けている。アッバースはバイデンとの会談を要請したが、バイデンは拒否した。そのため、アッバースは、ニューヨークへはいかなかった。

自治政府が、米国の慈悲に望みをかけるのでは、パレスチナの民衆の戦いに基盤を置くことの重要性を、ギルボア刑務所から自由を勝ち取った獄中者の闘いは示している。



彼らのモラルが彼らの自由よりも優れているとき



2021年9月16日に投稿 | 11:12 (PFLPのホームページより)

パレスチナ人獄中者があらゆる方法で自由をもめる権利があるというのは、議論の余地はない。そして、その意味は・・・占領当局の拘留センターや刑務所から獄中者自身を解放する過程は、1987年5月18日にガザの中央刑務所から始まり、一つの刑務所や交流センターだけでおこったわけではない。ジハードやイスラム国によるが、そのほとんどが、失敗したが、しかし、我が人民の獄中者の自由を勝ち取る意思と決意を具現化した、そして、これらの企てと作戦は、6人の我がとらわれた英雄

による「自由トンネル」作戦のための「リハーサル」として行われた。

この過程は、最高に確保され要塞化された占領当局の刑務所で行われたため、不可能な脱出と呼ばれた。イスラエル軍と治安機関の中枢に打撃を与え、同様に、2020年12月から2021年9月6日まで、掘り続けたという時間の長さ、それは、この計画と準備の正確さ、カモフラージュと偽装、削掘道具の隠し方も反映している。刑務所は一日4回獄中者の数を数え、集中的な夜の臨検で、彼らの存在を確認する同様にノック作戦で、床や壁を叩くことによって房を点検し、浴室の点検を通して、突然の

臨検も忘れてはならない。それは英雄主義、決意、の意味を含む浸透過程であり、そして、また、占領当局の治安機関の弱さと衰退の状態を反映している。そして、アルカズナ刑務所を、紛争のサイクルから追放、高い判断から、我が人民の獄中者の最後の運命に変えることに失敗した。

この作戦は、その規模と質において、劣等で病んだ精神の持ち主、崩壊した疑いに、そして、それは想像の世界に、彼の精神病によって、彼を導き、たぶん彼の悪意は、この作戦は捏造されたもの、それは、ガザで起こっていることから目をそらすための占領軍のとの共謀だったとかの嘘意をつくりだした、

占領者が彼の防止の失敗を隠して隠そうとした、刑務官と協力して行われた、または獄中者が脱出する瞬間に望楼で眠っている女性兵士などの状況が獄中者に役立ったというその操作、および別のカメラに注意を払わず、カメラを追いかけないように警戒していた... など。そして、この規模の作戦それは外部の助けを借りて行われ、車が刑務所の外で獄中者を待っていたとか。

実行した英雄によって説明されているように、作戦は占領者の鼻先でおこなわれ、看守の1人の疑いにより、実行が一日早められた。獄中者は、セキュリティ、予防、技術、およびこれらのデバイスを実行する人間の要素... そしてそれらの4つは自由を呼吸し、5日間彼らの故郷を歩き回ることが可能にしました... そして彼の忍耐力、粘り強さ、そして「プームラ」(?)を食べ、子供たちと混ざり合うことができました。カドリはそのうちの1人を受け入れますが、彼らの最大の懸念は、彼らが人々の子供たちに危害を加えないことであり、それが、彼らが私たちの人々の家に入らないという決定をした理由です。-彼らを恐れて、この英雄的な方法で自由を手に入れた人は誰でも、人々は彼らの助けを求める権利を持っていますが、彼らはモラルと人間性を彼らの自由よりも優先します、自由の戦士の私たちの人々の多くが彼らのところに行けば彼らを受け入れるだろうという完全な確信にもかかわらず、そしてこれがモラルです。

占領とその諜報機関は、2人の獄中者マフムードアルアルダとヤコブアルカドリを逮捕した後、これら2人の英雄についての彼らの話を証明するために、すべてのセキュリティとメディアサービスを採用しました。そして、ムハンマド・アルアルダは、そのニュースがメディアを通じて送り出したニュースを伝え、私たちの人々の士気を高め、これらの獄中者に到達し、彼らを再逮捕するこ

とができ、そのようなオプションはそうしないことを望んでいました。仕事とその費用は非常に高価であり、獄中者だけでなく、すべての家族、家族、社会環境、そして獄中者運動の子供たちに害を及ぼします。

占領者は、彼の情報機関とメディア装置を使って、パレスチナの人々に心理戦を繰り広げ、その超自然的な能力を信じる人々が共有する体系的な戦略に従って、メディアとソーシャルメディアプラットフォームを通じて彼の物語を証明しようとしてしました。屈辱と従順さのアプローチに固執する人々、そして青年とフェイスブックの少年たち、そしてまた私たちの人々の間で争いを放送し広めることを求めた人々によって私たちの獄中者の所在を導き、示した彼と協力している人々がいると言って、そして、獄中者アルカドリによって伝えられた情報が正確であるように見えても、彼らを非難した人々がいると言って、内部の私たちの人々の議論と非難の方法を構成せず、それはいかなるものにも含まれません。パレスチナ人、私たちの英雄的な獄中者が移送されてナザレの中央裁判所に到着する間、声が大きくて応援していたこの人々、私たちの人々は素晴らしく、ナザレ・タウフィーク・ジャド、それは決してありませんでしたが、闘争と犠牲、そして「エルサレムの剣」の戦いで、そしてすべての占領軍で、彼らの故郷を裏切ったり、彼らを欺いたり、彼らの利益のために味方したりする占領者との協力者がいて、すべての占領軍が募集するのを目撃しました。それがその目標と利益に奉仕するための代理人と傭兵。これは、フランスがアルジェリアを占領し、ドイツがフランスを占領し、アメリカ人がベトナムを占領した時代に起こりました。イスラエルの家族はレバノン南部にあり、村のつながりなどの経験があります。

再逮捕された解放された獄中者とまだ逃げている2人の獄中者の場合のもう一つの悲劇は、少年、青年、無知な人々によって広まった大量の虚偽のニュースと噂が、起こったように獄中者自身に関係している。ズバイディの獄中者と彼の健康の場合... 私たちは、私たちの獄中者が暴力的で残忍な拷問を受けたとは主張しません。彼は彼を彼らの弁護士の獄中者だと説明したが、単純な人々だけでなく、自分たちを「最初の」ジャーナリスト「アブ・アル・アリフ」と呼ぶ。道化師やサスペンスのジャーナリストや彼らの所有者から彼らに光を当てたい人々から、虚偽の偽造されたニュースを放送することは許されない。

私たちの英雄的な獄中者であるマフムード、ムハンマド・アルアルダ、ヤコブ・カドリ、ザカリア・アル・ズバイディが実体を揺るがした5日間について語った物語は、すべてのパレスチナの子供たちのための「民族教育」のレッスンからのレッスンであるはずでなく、パレスチナの人々のための「自由のトンネル」は、その光が終わるまで常に開いていることを忘れないでください。

そして、オペレーション・フリーダム・トンネルによって強化され表現されたメッセージは、占領者とそのセキュリティおよびインテリジェンスサービスだけでなく、パレスチナの獄中者の意志が最も強化されたすべてのセキュリティサービスを上回り、浸透することができることを彼に伝えます、別のメッセージがあります。こ

れは、ラマラとガザの意思決定者と2つの当局、パレスチナ党の指導者、さまざまな政界の党派にとって、獄中者を自分たちから解放するプロセスがこのように「アルカズナ」刑務所、つまりバカ・アル・ガルビエの獄中者サレ・アブ・モクが占領刑務所で35年間過ごした後、「私は解放された囚人ではなく、誰も解放しなかった」というメッセージです。「私は私の判決を終えて刑務所から出ました。」.. メッセージは30年以上占領の刑務所にいた獄中者がいると言います、そしてあなたは長い間待つ、長い約束、私たちの目的への長い投資を言います、



オスロ合意は、以前に署名され、現在も存在している政治的アプローチ

2021年9月16日に投稿 | 11:08 (PFLPのホームページより)

オスロ合意は一定期間内に成立しませんでした(1993年9月13日に署名された原則宣言は、イスラエルがPLOを承認し、5年以内にエルサレム、難民、入植地の問題について交渉することに対して、歴史的なパレスチナの土地の78%でイスラエルが存在し、安全で平和に暮らす権利をPLOが認めることを規定しています)。

この合意は、PLOが暫定的に承認した第12回民族評議会以来、それ以前の変革、同盟、決定から切り離されていない政治的アプローチの産物であるため、その瞬間の結果ではありませんでした。その10のポイントでの解決策、そしてパレスチナのあらゆるインチでの国家の確立の受け入れ、その後それが形成された多くの派閥、拒絶戦線は、このステップの深刻さとそれが前奏曲になるという彼らの懸念を感じました「イスラエル」を承認し、

暫定的な解決策を最終的な解決策として検討し、その後の20年以上にわたって内外の機構を作り出すプロセス、そしてエスカレートしていた政治的衰退の状態から蓄積されたPLOの影響のあるリーダーシップの動きそして、パレスチナの大義で起こった出来事によって衰退します。

キャンプデービッドでのエジプトのアラブ国家の懐への復帰への貢献から、1984年のアンマンでの第17回国会、1988年のアメリカ人との間接交渉の開始、1989年のフランスでのPLO憲章の時代遅れ宣言まで(カドック)、そして1991年の中東和平会議へ。

また、この指導部がアメリカの調停者に依存する政策に没頭している間に、67年の占領地が(A、B、C)に分割されたため、その後の出来事、合意、譲歩から切り離されることはありません。タバ協定9/1995、パリ経済協定8/1995、1998年のワイリバー安全保障協定、その後

の安全保障調整が神聖になり、キャンプデビッド会談の失敗と2000年のアルアクサインティファードの勃発で、そして、ヤーセル・アラファトとその部下の間の権力争いのシナリオ。

これは、アラファトの殉教と、2005年にマフムード・アッパースが当局の議長に就任し、その後マフムード・アッパースとムハンマド・ダーランが決別したことで終わりました。

2006年に立法評議会の大多数の議席でハマスが衝撃的な勝利を収め、2007年に内部分裂が起こり、ガザ地区をハマスが強制的に支配し、分裂を使って内部の矛盾は主要な敵対的な矛盾に変えた。そしてそれは今日でもその憂鬱な場面をのこしている。パレスチナの大義への内的、

アラブ的そして国際的な挫折、私たちの人々と彼らの大義に対するこの協定によって課せられた政治的、安全と経済的コミットメントへの所有者の順守に照らして、それは同じアプローチでその道が続けます；前の段階の一時停止と見直しに対するすべての呼びかけと要求を無視し、この道を終わらせ、原因を民族の解放の道に戻し、民族の結束を再び団結させる新しい民族戦略とプログラムに関する合意へと進むべきです。

これは私たちが知っているオスロであり、賢明な人はその毒がその蜂の巣の地殻の中に押し込まれていることに対して私たちに警告しました、そして私たちはそれが署名された日に私たちの黒い旗を掲げました



2021年9月6日に投稿 | 15:26 (PFLPのホームページより)

おそらく、パレスチナの大義に起こった最悪で最も危険なことは、2つの本質です。1つ目は、実際には、実践された政治において物語の起源から逸脱し、1967年にイスラエルが占領した土地に対する民族の権利を制限する国際的な正統性決議に基づく物語を受け入れるというパレスチナ人の意欲に関するものです。

二つ目は、パレスチナ人が国連に設定した上限を引き下げることを公的に政治的に受け入れたことと、土地を占有した人々があらゆる形態の闘争を利用する権利について、武力闘争。および粗雑な形態の闘争は、テロリズムとして分類された。

最近、誰かが、たどった道の一般的で深く歴史的な見直しに着手し、その後、1965年から1967年にかけて大規模な変化をもたらした巨大なパレスチナ革命が続き、国民のアイデンティティを結晶化させ、人々を団結させることに熱心か。、その代表を解放組織に限定し、問題を国際地図に載せた... 革命の勃発から間もなく、それは、シオニストの拡張主義的性質を深く理解することなく、1974年に暫定プログラムを承認するために急いだ。

プロジェクト、そして勢力均衡の正確な計算なしで、それは後で暫定を達成する能力なしで暫定的に戦略的になることにつながるでしょう。拡大主義者と人種差別主義者のイスラエルの政策の達成を妨げるものは、パレス

チナ人が彼らの政策を考慮に入れるために、天文学者や天文学者を必要としない、パレスチナにおけるシオニストプロジェクトとその主張の本質は彼らが呼ぶ西岸をユダヤとサマリア、そしてエルサレムによみとることができる。。

暫定プログラムを承認する際に地域の動向を考慮する必要があり、これらの進展の中心は、パレスチナ人が動員の戦争と占領への抵抗として正しく理解した10月の大戦争の結果であり、それはイスラエルとエジプトの間の和解への道を開き、これは公式のアラブ戦線に深刻な亀裂を残した。

同時に、現在と将来の勢力均衡の不正確な解釈があり、一般的な民族的目標の変更は、より良いアラブの状況に基づいており、資本主義陣営と絶え間ない闘争を繰り広げている社会主義体制が主導する解放陣営のパレスチナ革命は世界の真の不可欠な部分であったということです。

比較すると、シオニストプロジェクトは、国際的な植民地プロジェクトとして、お金、武器、政治を使って、植民地資本主義キャンプからの支援を受けていたことがわかります。

一方、パレスチナ革命は、一般的な擁護に加えて、国連決議、古い原始兵器、奨学金、訓練を達成するための攻撃的な傾向やイニシアチブを伴わない一般的な政治的支援を除いて、社会主義陣営から受けませんでした。

1967年と1973年のアラブ・イスラエル戦争の経験、そしてイスラエルが同盟国から受ける軍事および政治的支援の性質、そしてアラブシステムが社会主義陣営から受けるものは、イスラエルに有利な大きな質的違いを示している。

おそらく、イスラエル国家を迅速かつ早期に認識するために、ユダヤ人の問題のファイル、およびソビエト連邦とその社会主義システムの理由と動機を再開することに戻る必要があります。ここでの問題は、植民地主義諸国が何世紀にもわたって統合に成功しなかったユダヤ人を追い出し、彼らを雇用して彼らの利益に役立つ国家とプロジェクトを設立したかどうかです。そして彼らはアラブ民族主義のルネッサンスプロジェクトを中止することを約束します。ソビエト連邦と社会主義システムの国々もまた、彼らの社会でユダヤ人を追い出したいと思っていましたのだろうか。

植民地主義諸国はイスラエルを擁護し保護し、その覇権を達成するために戦いましたが、パレスチナ人の権利の支持者と見なされている社会主義システムとその派生物および中国の役割について何を言うことができますか？この問題は、過去と現在だけでなく、形成されている国際システムの頂点に中国を導く可能性のある国際的な変化の未来にも関係しています。問題は、イスラエルを支持する国々の舞台での闘争は、パレスチナ人と同盟を結んでいる国々の立場に賭けるよりも有益ではないかということです。

これに関連して、1981年のモロッコのフェズ首脳会議がファハドビンアブ王子の和平プロジェクトを承認したため、暫定的と戦略的關係に向けたパレスチナ人とアラブ人の後退が続いた。

1982年にイスラエルがレバノンに侵攻し、PLOとその戦士が応戦した後、組織はアンマン協定として知られるものに進み、その後、パレスチナ平和イニシアチブとして知られているものの基礎を築いた第19回民族評議会が安保理決議242および338の承認を受した。

アラブの状況は変化し、ある分裂と紛争から別の分裂へと移り、「砂漠の嵐」の戦いが勃発し、何が起こったのか、そしてこれらすべてがパレスチナ人の状況に反映されました。偉大なパレスチナ人の人民蜂起が勃発しました。

パレスチナ人はそのインティファダを悪用することを急いでおり、イスラエルとその同盟国にパレスチナの平和イニシアチブに真剣に対処することを強いることができるかと賭けましたが、これは起こりませんでした。

特に米国だけがクウェートからのリーダーシップの下

で新世界秩序を発表した後、そして社会主義システムとソビエト連邦の崩壊後、組織の状態は良くなく、アラブでも国際的でもありませんでしたが、これは組織の正当化されませんでした。それとの対話を開くためだけにアメリカの条件を受け入れる。

組織がイスラエルの存在権を認め、回避的な公式で民族憲章を放棄し、テロの放棄を宣言したため、これらの条件は危険な歴史的譲歩をもたらしました。そのような状況で、パレスチナ人による武力闘争の実践はテロリズムであり、それがテロリズムの概念と決定要因を深め始めるための基礎を築いたものに戻らないという暗黙の認識を意味するものは、決定から離れています国際的な正当性と解放的な価値観の喪失となった。

PLOは、チュニジアのアメリカ大使を通じてコミュニケーションのチャンネルを開くことを除いて、アメリカの条件に同意する見返りにいかなる代償も受け取りませんでした。これらの撤退は強制されたものであり、彼らの目的は、厳しい圧力と財政的および政治的包囲にさらされた組織を保護することであり、弱く、分裂し、さらには対立するアラブ政権が、イラクのクウェート侵攻。これは、オスロ合意がパレスチナ人が今日到達したことの結果であり、原因であったことを意味します。それは、危険な発展とパレスチナ政治の連続した後退の長い文脈の結果であったからです。

おそらく、オスロ以来の現段階でのパレスチナ人の経験は、イスラエルがパレスチナ人が一時的に望んでいたパレスチナ国家プロジェクトの基礎となる国際的な正当性の決定に基づいて、そしてそれを達成するためにパレスチナ人と交渉している過程にないことを証明した。そして、おそらく達成不可能な戦略的目標に変わりました。パレスチナ人は歴史的な物語に基づいて紛争を回復するために多額の代償を払わなければならない、他の解放的で成功した経験のために、パレスチナ解放の経験に政治的教訓を適用すべきではありませんでした。パレスチナの場合、問題は国家が他の土地や人々を占領することではなく、人々を消そうとする包括的で急進的なプロジェクトと、起こったように、段階的かつ戦略的な目標に解放の分割を許さない強制による彼らの土地の押収に関するものです。

しかし、その賭けは、膨張主義的な野心と国際的な決議の拒絶を伴うイスラエルが、お互いを弱体化させる2つの歴史的な物語の間の衝突であるため、紛争をその起源に戻すものであるということです。



ことしも、サブラ・シャティーラの虐殺の日が来た。1982年9月16日から18日にかけて、イスラエル軍の包囲下であり、合意に基づき、パレスチナの戦士たちは、船でベイルートを撤退せざるを得なかった。当然、キャンプには、女性、子供、老人しか残っていなかった。イスラエル軍は、その手先となっていたレバノン軍団をキャンプへ導き入れ、虐殺を行わせた。イスラエル軍は、照明弾を発射して、レバノン軍団の虐殺を支援した。

犯行現場は、イスラエル軍によって包囲されており、だれも何が起こったかわからなかったが、あるジャーナリストが現場に入り込むことに成功した。そこで見たものは、女性、子供、老人の大量の遺体であった。しかも、遺体の下に手榴弾がピンが外された状態でしかれており、遺体を動かせば爆発するようになっていた。彼の尽力で世界にこの事実が報道された。

サブラ・シャティーラキャンプは、パレスチナ解放運動の拠点としてあり、パレスチナ諸組織の事務所があった。

イスラエル軍の6月に始まったレバノン侵攻に対して、パレスチナ、レバノンの民族主義、イスラム勢力、シリア軍が、防衛戦争を行ったが。イスラエル、陸、海、空軍を使った全面戦争で、イスラエル空軍とシリア空軍の

100機対100機の空中戦で、米国製の最新鋭のF16、F15の威力の前にシリア空軍は敗北し、制空権は、完全にイスラエル握られるようになった。最終的には、イスラエル軍に西ベイルートに包囲されることになり、9月まで、持ちこたえたが、最終的にパレスチナが撤退することで、停戦が成立した。クリスチヤンの東ベイルートは、右翼キリスト教民兵が、イスラエル軍と共同していた。イスラエル軍は、西ベイルートを兵糧攻めにし、電気、水を止めた。この間に、イスラエル軍は、アラファトの暗殺を何度となく企てた。

サブラ・シャティーラの虐殺は、停戦合意の設立後、パレスチナ戦士が船で撤退したあとに行われた。残っているものは、女性、子供、老人の非戦闘員だけであった。

右翼マロナイトの民兵組織レバノン軍団は、フランヘ党のゲマイエルがイスラエルの支援で、レバノン大統領になり、その後に暗殺されたことへの報復であった。70年代のレバノン内戦で、西側に寝返ったマロン派キリスト教徒が米国、イスラエルの支援のもとに、パレスチナ、レバノン民族主義、モスLEM、ギリシア正教などのキリスト教徒がそれに対し対峙してきた。

イスラエル軍は、パレスチナ追い出したあと、レバノン民族主義、イスラム勢力（このなかでシーア派モスレ

ムの中から、ヒズボラーが登場した) 抵抗闘争を行い、また、イスラエル軍内のモラルの低下の中で、レバノンからの撤退を余儀なくされた。

そして、そのあとにベイルートに駐在しようとした、米海兵隊は、ヒズボラーの自爆攻撃で、200に近くが死に、撤退を余儀なくされた。

パレスチナ勢力の大半は、海上からシリアに入り、再びレバノンのベカー高原に展開した。しかし、シリアと

の関係を嫌う、アラファトなどのファタハの幹部はチュニスに撤退し、政治交渉に期待をかけた。

イスラエルでは、当時の国防相であったアリエル・シャロン、と参謀長が虐殺の責任を問われることになった。

キャンプで虐殺された人々は3000人にも上るといわれている。その怒りは、第一インティファダとして、占領地内の蜂起となって爆発した。



第二次インティファダから 21年目のパレスチナ

戸平和夫(オリーブの会)

タイトルは「第二次インティファダから21年目のパレスチナ」ということになっていますが、個人的には、1987年の第一次インティファダは中東にいて、毎日PFLPの人から情勢をブリーフィングを受けていたので、感性的な認識がありますが、第二次インティファダの時は、獄中にいて、情報が乏しく、感性的な認識はありません。ということで、資料を見ながら、歴史を追ってみたいと思います。まずは、現状からみていきましょう。

パレスチナの分裂の深刻化

パレスチナの分裂した状況は、トランプ政権の時に、克服の可能性が高まったが、バイデン政権になって、ふたたび、自治政府は、和平交渉に期待をかけることになり、自治政府が総選挙を延期したと相まって、分裂状況は拡大した。とりわけ、イスラエルとの治安共同まで復活したことは、決定的となった。

東エルサレムでのシェクジャラの住民の追い出しは、激しい入植者と占領軍と連日の衝突を生み、また、入植者によるエルサレム旧市街での旗の行進による挑発そし

て、それが、アル・アクサモスクでのパレスチナ人礼拝者とイスラエル占領軍との対峙を生み、また、48年領内のパレスチナ人の礼拝のためのバスをイスラエルがとめ、パレスチナ人は、バスを降りて、アルアクサに向かった。それが、すでにイスラエル警察によるアラブ人地区での犯罪の放置への怒りが爆発していたところに油をそそぐことになった。そして、パレスチナ人の怒りは、全パレスチナ広がった。

ハマス、人民戦線などのガザの抵抗勢力は、「エルサレムの剣」作戦で、大量のロケットをイスラエルに打ち込み、これは、パレスチナ人全体に歓迎された。とりわけ、テルアビブまでロケットを飛ばしたことは、もちろんこれは、イスラエルのガザに対する多量な報復を生んだが、パレスチナ人全体の士気は高まった。

もう一方で、こうしたパレスチナ人全体の闘いの高揚の中で、際立ったのが、自治政府の存在がないことであった。自治政府が、アメリカの仲介による交渉に期待をかけても、パレスチナ人の多数は、交渉は意味のないことを知っている。

・イスラエルは分裂を利用し、自治政府をてこ入れし、ハマスの弱体化を図ろうとしている。そして、現在のパ

レスチナとの政治交渉を否定している。すでに湾岸諸国などのアラブ諸国と国交を正常化し、アラブにとってもパレスチナの大義が第一ではなく、自国の利益が第一であることを示した。急いでパレスチナと交渉する緊急性はなくなっている。

オスロ合意と第二次インティファダ

第2次インティファダ（アル・アクサ・インティファダ）は、2000年9月28日にイスラエルのシャロン・リクード党首・外相（後に首相）が1,000名の武装した側近と共にアル・アクサモスクに急襲したのがきっかけであった。この暴挙にパレスチナの民衆の怒りが爆発した。この蜂起は、PLOの和平交渉を頓挫させた。蜂起は2005年まで続いた。これは、パレスチナ民衆のオスロ合意への拒否をしめしていた。

パレスチナ自治政府（正確には暫定自治政府、あくまで暫定である）はパレスチナ解放機構とイスラエルによるオスロ合意により、1994年に設立された。自治政府が安全保障と文民統制を管轄する都市区域（エリアA）、文民統制のみおこなう辺境区域（エリアB）がある。残りの地域のイスラエル人入植地、ヨルダン谷、及びパレスチナ地区を結ぶバイパス道路はイスラエル管轄区域（エリアC）となった。エルサレムの地位は、その後の交渉によって決定されるとした。

オスロ合意そのものも、第一次イラク戦争で、アラブ諸国が米国側につくなかでパレスチナがサダムを支持したために、アラブ世界からも孤立したなかで、米国とイスラエル、そして、アラブ反動に押し付けられたものであり、PLOもそれに自らの生存を託すことになり、パレスチナの民衆にとっては、前進と言えないものであり、その中でPLOの主流派であったファタハの既得権益が拡大された。ハマスをはじめ、パレスチナの諸派は、その合意に反対した。

発足当初の1996年の第1回総選挙ではヤセル・アラファトが88.2%の得票率で初代大統領に選出され、アラファト率いる対イスラエル穏健派ファタハが立法評議会選挙で定数88議席のうち55議席という圧倒的多数の議席を確保して政権を運営していたが、縁故採用や汚職が相次いだことで徐々に支持を失った。

特にアラファト死後の2006年に実施した2回目の総選挙ではイスラム原理主義にたつハマスが第1党となった。第一次インティファダの中で生まれたハマスは、第二次インティファダでも存在感を増していた。米国、西欧、イスラエルは、ハマスをテロ組織として、この選挙結果を認めなかった。そして、交渉推進派のアッパース

とファタハを支持していた。

2003年には、米国の反テロ路線に合わせて、イラン、ヒズボラ、ハマスをテロ組織として、それに対抗するアラブ反動諸国とイスラエルの同盟をつくり、そこにパレスチナ自治政府を組み入れることに、米国、イスラエルの戦略が再編された。この時点でもはやパレスチナ問題が中東問題の中心ではなくなった。

アラファトの後継者として大統領に就任したファタハ議長のマフムード・アッパースとハマスの内閣はたびたび対立し、2006年にガザ地区でファタハとハマスの武装組織が衝突し、ハマースはガザ地区を武力制圧した。アッパースはハマスのイスマイル・ハニヤを首相職から解任したが、ハニヤは拒否し、ハマース率いるガザ地区とファタハ率いるヨルダン川西岸地区は2007年以降分裂状態となっていた。これが、現在の分裂状況にまで続いている。

分裂の克服試みは、エジプトの仲介で何度も行われ、暫定統一政府も誕生したこともあったが、分裂の根本的な問題が解決されず、何度も失敗してきた。

この間にもイスラエルは、ハマスが支配するガザに対して、空からだけでなく、地上部隊の攻撃が行われ、パレスチナ側に多数の死傷者が出た。

アラブの春

2010年にいわゆるアラブの春が起こったが、チュニジア、エジプトでは、旧来の政権が倒され、リビアでは、欧米の支援のもとで、カダフィ政権が打倒され、シリアは、イスラム同志会を中心とする反乱から、外国勢力が介入する悲惨な内戦に陥り、イスラム原理主義のテロ組織が割拠するようになった。湾岸でも支配層のスニー派に対して、国民の多数を占めるシーア派住民が、抗議行動を行い。湾岸諸国の王族を守るために、サウジが軍を派遣するなどした。その混乱の中でシリア、イラクにISが生まれ、状況をより複雑にし、中東の焦点は、もはやパレスチナでない状況が作られ、イスラエルには有利な状況となった。アラブ諸国の混乱と弱体化は、イスラエルの安全を高めることになった。

パレスチナでは、アラブの春の影響は、エジプトで親イスラエルのムバラク政権が倒れ、イスラム同志会のムルシ政権が生まれたことであった。ハマースはもともとイスラム同志会のパレスチナ支部で、イスラム同志会の政権ができたことは、イスラエルだけでなく、エジプトからの封鎖を受けていたガザにとって、状況が改善されることになり、そのうえで、ハマースとファタハの和解が進められる条件ができた。しかし、ムルシ政権は、軍のクー

オリーブの会通信 第11号(通巻17号)

デターで、再び軍の独裁政権に変わり、ムバラク政権と同様に、イスラエルと結んでガザを封鎖した。

このアラブの春で進んだのは、シーア派枢軸とスンニー派枢軸との対立であり、国家的にはイランーイラクーシリアーヒズボラの流れ、ハマスはスンニー派であるが、そちらにいれられている。他方ではサウジを盟主として、湾岸諸国、などに分れることになり、イエメンは、イランから支援を受けるフーシ派とサウジ、湾岸諸国から支援を受けた旧来の支配者との戦争状況がある。

ネタニヤフ・トランプ時代

米国に、親イスラエルのトランプ政権ができたことで、パレスチナの様子はさらに悪くなった。これまでは、米国は、表向きには、仲介者のようにふるまっていたが、トランプになって、仲介者ではなく、あからさまにイスラエルの立場にたった。トランプは「世紀の取引」を標榜し、「繁栄のための平和」プランを提案し、パレスチナの大義を夢物語なものとし、各国の経済的利益と安全保障を第一とした。経済的繁栄求めて話し合う中東和平経済会議が、パレスチナを除くイスラエルとアラブ諸国が会議をもった。これは、その後の「正常化」につづくことになる。

このアラブ諸国とは、サウジと湾岸諸国などパレスチナの問題よりもイランの脅威に対して、イスラエルとの共同することの利益をえらんだ国々である。アラブ大義は捨てられ、自国の利益で動いた。スーダンは、テロ国家規定をアメリカが外すということでイスラエルとの国交の正常化した。モロッコも、対アルジェリアのために、イスラエルとの正常化に走った。

アラブ諸国は、自国の利益の前に、パレスチナアラブの大義を捨て去り、自治政府は、アラブの中でも孤立することに。

トランプのオスロ合意をも無視したイスラエルの寄りの政策にさすがの自治政府も、イスラエル共同を否定し、オスロ合意を見直すといわざるをえない、それがハマスのなどの民族統一の機運をつくりだすことになった。

ところが、バイデン政権の登場で、自治政府は、交渉への色気を示す。そのため、再び、総選挙を延期した。イスラエル、アメリカは総選挙に反対していた。それは、ハマスが勝利し、アッパース、ファタハが敗北するのが明確であったからである。

これで、トランプ時代以前にもどり、自治政府は、イスラエルとの治安共同を復活させるところまでに至った。ハマスをはじめ、パレスチナの諸党派は、これを批判し、再び分裂は決定的になった。

イスラエルは、ネタニヤフが政権から去っても、右から左、アラブ系までのベネットを首班とする連立政権でも、イスラエルの世論そのものが右傾化しており、以前の労働党政権のように、和平交渉に熱心ではなく、ネタニヤフ時代のように、西岸の実質的併合に進むことは明確であった。とくに、現在の首相であるベネットは極右であり、和平交渉などは、望むべくもない。また、バイデン政権もトランプが既成事実と作り上げた、中東の新たな構造を否定することはできず、イランとの核合意にもどると宣言しても、現実には、厳しいものとなっている。バイデンが東エルサレムに米港領事館を再開しても、UNRWA への拠出を再開したとしても、和平交渉は再開されることはない。バ

イスラエルは併合の既成事実をつくっていきっており、パレスチナとの政治交渉はありえないとしている。自治政府を現在のまま、延命させて、ハマスと対峙させ、パレスチナ人を支配させることで、イスラエルの安全に貢献させることでしかない。

他のパレスチナ諸派、パレスチナ民衆がそれに反対するのは当然のことであり、抵抗闘争は、パレスチナ全土に広がっている。

しかし、パレスチナの困難は、軍事的に従属されているだけでなく、経済的にもイスラエルに従属されていることである。経済的な主権まで奪われた状態にあり、イスラエル経済との関係抜きでは、困難な状態にある。パレスチナの中では、UAWC（農業労働委員会連合）

などの NGO が食料主権の確立を訴え、パレスチナの自立した農業をはじめと食料生産をめざし、パレスチナの主権を確立する運動が存在している。イスラエルはこうした NGO に対しても、テロ組織と関係があるとでっち上げ、国際団体に援助させないようにしている。また、この間パレスチナの運動の中でイスラエルの脅威となっているイスラエルボイコット (DBS) 運動がターゲットされ、イスラエルだけでなく、米国では、非合法化する動きもある。それぐらい、イスラエルに脅威を与えているということである。こうした NGO に運動は、国際的な結びつきが強く、国境を超える運動となり、それが、国家主権を制約する可能性をもっている。パレスチナ各地での民衆のイスラエルと対峙するたたかいは、現状を変えていく可能性をもっている。取り残されているのは、小権力者である自治政府である。自治政府に批判的な市民運動の指導者を逮捕殺害したりしており、パレスチナ民衆の利益にたっていない。

パレスチナ日誌

8月26日

- ・ 占領当局は、アッサモウで、電気のネットワークの改善工事を妨害し、機材を押収した。
- ・ 占領軍の戦闘機は、ガザ回廊のいくつかの地点を標的とした。
- ・ 占領軍の銃撃の結果、青年ユセフ・ムハリブが死亡した
- ・ ガザ：コロナで一人死亡、73人が感染
- ・ ハーンユニスほ東への占領軍の機甲部隊の限定的な侵攻
- ・ ガザのレジスタンスの地上防衛隊は、ガザ周辺の入植地の家屋や工場に打撃を与えた。
- ・ ニュージャージ港でのイスラエル船の積み下ろしをデモ隊が阻止した
- ・ 西岸での逮捕、内部道路の閉鎖
- ・ 占領軍は、シェイクジャラの近隣で青年を逮捕
- ・ 近隣に到着後、占領警察は、シェイクジャラのテントを解体する決定を覆した
- ・ パレスチナでのコロナ、一人死亡、101人の新たな感染者

8月27日

- ・ ヨルダンは、国境のイスラエル兵を狙ったISの陰謀をつぶした
 - ・ イスラエルの裁判所はPLOに、誘拐で100万シェケルの罰金を科した。1985年のアキラウル号での誘拐の罪で被害者の家族が訴えたもの。
 - ・ エジプトは、ガザの再建と平穏を達成するためのコンタクトを継続する
 - ・ パレスチナのコロナ。一人死亡、130人の新たな感染者
 - ・ PNC：エルサレムの心臓部での入植地計画は、国際的に明らかにされなければならない犯罪である。
 - ・ イラン治安機関は、モサドの細胞を逮捕したと発表
 - ・ ガザ、コロナで一人死亡、113人の新たな感染者
 - ・ ナブルスの南の家で青年が占領軍に銃撃された
 - ・ ヘブロンで、市民が銃撃され死亡。緊張が高まった
 - ・ 占領軍は、ヘブロンの前哨基地から9つのキャラバンを撤退させた
- 7月28日
- ・ 西岸、エルサレムで逮捕
 - ・ 夜に、ベイタの町での占領軍との衝突で、106人が負傷。

- ・ 赤新月社：ジャバルサビでの占領軍との対峙で49人が負傷
 - ・ エルサレムのアルーツールの町で家の解体と土地にブルドーザーをかけた
 - ・ 占領軍は、アルアクサの門で二人の女性を逮捕した。
 - ・ パレスチナのコロナ、死者なし、159人の新たな感染者
 - ・ ガザのコロナ、死者なし、119人の新たな感染者
 - ・ 占領軍は、ヘブロン二人の兄弟を逮捕
 - ・ 占領軍は、殉教者シャディ・セリムの遺体の引き渡しを拒否
 - ・ ガザの海で、占領軍のボートは、漁師を標的にした。
 - ・ ベイト・ウマールで子供が占領軍の弾丸で、重傷を負った。
 - ・ 占領軍は、ハーンユニスの東で、下水車に発砲
 - ・ カタールの副大使、がガザに医療団とともに到着した
 - ・ ベイト・ウマールで、病気となった子供の葉かを占領軍は掘り返した
 - ・ ハニヤはカタールの外相とパレスチナの状況について会談
 - ・ エジプト、ハマスと通信をしたという件で、モスLEM同志会の指導者たちが、終身刑に
 - ・ 安保理で、パレスチナ人に対する占領軍と入植者の蹂躪と攻撃について討議
 - ・ 占領軍は、7年間拘束していた漁師を釈放した
 - ・ ベイト・ウマールの子供ムハマド・アルーアラミが負傷から死亡した
- 7月29日
- ・ 占領軍の海軍がベイトラヒア海で二人の漁師を逮捕した
 - ・ 入植者たちがアルアクサに押し掛けた
 - ・ イスラエルの航空機がレバノンの領空を犯した
 - ・ ベイト・ウマールで、占領軍との対峙で、窒息者がでた。
 - ・ パレスチナのコロナ、死者なし、116人の新たな感染者
 - ・ 首相：表現の自由を制限することについてのすべてのうわさは、すべて嘘である。
 - ・ イスラエルは、シェイクジャラから3家族を退去させる決定を凍結した
 - ・ 逮捕した二人の漁師を釈放した
 - ・ ヨルダン渓谷で、占領軍は、農業施設で働くの止める通知をした。
 - ・ イスラエルは、入植者に西岸の数千ドナムの土地を与える
 - ・ 占領軍は、アルービレの子供の保護のための国際運動

オリーブの会通信 第11号(通巻17号)

の本部を襲撃した

- ・ガザ、コロナ 88 人の新たな感染者
 - ・イスラエルは、シェクジャラからの退去を 6 か月間手続きを凍結すること動いた。
 - ・占領軍は、数百台の新車を押収し、ガザに入るのを阻止した。
 - ・ベネット：ガザ回廊のより多くのターゲットを攻撃することをつづける
 - ・子供の住協者アルーアラミの葬儀で、衝突、重傷者が
 - ・ヘブロンで、占領軍によって青年が撃ち殺された
- 7月30日
- ・ナブロスの南、プリンで、入植者が電話の電柱を切り倒した。
 - ・ジャバルサビで占領軍との夜対峙で 39 人が負傷した。
 - ・ベイルートの UNRWA の事務所は、パレスチナ人にサービスの提供ができていないことへの抗議で、閉鎖された。
 - ・ハニヤは、アフリカ同盟委員会の議長に攻撃の手紙を送った。
 - ・ジャバルサビで、占領軍の発砲で 168 人が負傷した。
 - ・カフル・ハダムの抗議行動の弾圧で、数十人が窒息した。
 - ・占領軍は、殉教者アワドの葬儀を攻撃し、窒息者を出した。
 - ・占領軍は、ヘブロンで平和的な座り込みを弾圧した。
 - ・パレスチナのコロナ、2 人死亡、135 人の新たな感染者
- 7月31日
- ・エリザベス港で、イスラエルの船が荷下ろしする米国のキャンペーン
 - ・ベツレヘムの南で、入植者たちが、140 本のオリーブの苗を破壊した。
 - ・オマーン：了解の外で、イスラエルの船に攻撃が行われた
 - ・イスラエル報道：イランのドローンがアラビア海のタンカーを攻撃した
 - ・人民闘争戦線：行動規範の第 22 条の廃止は、公共の自由に対する制限です
 - ・イスラエルは、南部レバノンの国境エリアを要塞化をはじめた。
 - ・ガザのコロナ 1 人死亡、106 人の新たな感染者
 - ・ベイタで、この 3 か月 5 人の殉教者と 2850 人の負傷者
 - ・ラピドは、標的にされた船への報復の計画を明らかにした
 - ・占領軍は、シェイクジャラのデモ弾圧
 - ・エルサレムで、7 人の入植者が、アラブ人の労働者への暴行とホテル財産を破壊したことで逮捕された。

- ・米国：イスラエル人がパレスチナ人の子供の本を弾圧
 - ・デュラの女性が占領軍に逮捕された
 - ・イスラエル軍は、ガザへ新たな攻撃をするおどし
 - ・ナブルスの南、アルールバンアルーシャルキイヤへの占領軍の襲撃で窒息者
 - ・ガザの南と東のデモ行進の占領軍による弾圧で負傷者が
 - ・ハマス：占領当局が、殉教者の遺体を保持しつづけるのは戦争犯罪である。
 - ・ベツレヘムの西で、占領当局は、モスクと 9 件の家、二件の設備の工事をやめるように通知した。
 - ・シンベトは、兵士を銃撃した容疑で、サイルの市民を逮捕したと発表
 - ・発掘のため、[自然保護当局] がシリワンの壁を破壊した。
 - ・パレスチナのコロナ、5 人死亡、2466 人の新たな感染者
 - ・UAWC は、マーケティング・ステーションを作ることでラファ農業協同組合を支援した
 - ・アルーブレイジの平和的なデモの占領軍の弾圧で、二人の青年が負傷した。
- 9月1日
- ・エルサレム県で 8 月に 115 人の逮捕と 54 件の家屋の破壊があった
 - ・アルーブレイジの東で、実弾で市民 3 人が軽傷を負った
 - ・彼は 13 年過ごした、占領当局は編集者ジョラニをエルサレムから追放した
 - ・ラマラで、占領軍の銃撃で青年が殉教
 - ・占領軍は西岸で 8 人の市民を逮捕した。
 - ・エルサレムの教育事務所閉鎖する占領当局の決定。若い女性学校が急襲された
 - ・ベツレヘムの東で、占領当局は、建設中の 2 件の家を破壊
 - ・ガザのコロナ、9 人死亡、1413 人の新たな感染
 - ・占領当局は、釈放され獄中者をアルアクサから 6 か月追放した
 - ・パレスチナのコロナ、8 人死亡、2575 人が新たに感染
- 9月2日
- ・入植者たちは、ナブルスの南で家とその内部を破壊した。
 - ・ラファの東デモ行進への弾圧で、3 人が負傷した
 - ・アルアクサの門で入植者による行進
 - ・エジプト、パレスチナ、ヨルダンの首脳会議が始まった



窓から覗く鳥

窓から覗く鳥

そして彼は私に言った、ああ NO, NO
あなたと一緒に私を隠してください私を隠してください
あなたが来ることは、NO, NO

あなたと一緒に私を隠してください私を隠してください
あなたがくることは、NO, NO

どこから来たの？

彼は天国の限界から私に言った

どこから来たの？

彼は隣人の家から私に言った

私は彼に私が誰を恐れていると言いました

彼は逃げて、檻から私に言った

私は彼にあなたの羽はどこにあると言いましたか？

時間が経過したことを彼女に伝えます

窓から覗く鳥

そして彼は私に言った、ああ NO, NO

あなたと一緒に私を隠してください私を隠してください
あなたがくることは、NO, NO

そして彼の頬に涙が落ちた

そしてあなたの翼は傾いています

そして私は地面に着陸しました

彼は私が歩きたい、そして私の中に何があると云った

そして彼の頬に涙が落ちた

そしてあなたの翼は傾いています

そして私は地面に着陸しました

彼は私が歩きたい、そして私の中に何があると云った

そしてそれを私の心に抱きなさい

そして彼は彼の傷に苦しんでいます

刑務所が壊れる前に

彼の声と翼を壊した

どこから来たの？

彼は天国の限界から私に言った

どこから来たの？

彼は隣人の家から私に言った

私は彼に私が誰を恐れていると言いました

彼は逃げて、檻から私に言った

私は彼にあなたの羽はどこにあると言いましたか？

彼は時間が経ったと私に言った

窓から覗く鳥

そして彼は私に言った、ああ NO, NO

あなたと一緒に私を隠してください私を隠してください
い

あなたがくることは、NO, NO

オマイマアルカリル 歌

Marcel Khalifa Asfour

窓から覗く鳥



煙の切れ間から突然鳩の群れが飛び散り、天国の平和の輝きのように輝き、街の瓦礫の上にある灰色と青色の断片の間を旋回し、美しさはまだ存在し、存在しないことは完全ではないことを私たちに思い出させます。それが私たちに約束しているのです、私たちの愚か者、または私たちが考えたいのは、それが無とはどのように違うのかという啓示です。

戦争では、痛みを感じても死んだとは誰も感じません。死は痛みを先取りし、痛みは戦争の祝福です。四半期ごとに移動し、実行を停止します。そして、運が良ければ、彼は長期計画を忘れて、鳩の飛行の中ですでに存在する存在しないものが旋回するのを待ちます。レバノンの空には、何も無いところから立ち上る煙で遊んでいる鳩がたくさんいます。

おいしいパレスチナ

レシピ

- 500グラムのベビーオクラ (または通常) - 刻んだ茎
- 500グラムの骨なし子羊 (できれば肩 - 小さな立方体に刻んだ)
- トマトのみじん切り2缶(ハンドブレンダーでピューレ)
- 小さじ1クミン
- コリアンダーパウダー小さじ1
- 小さじ1/2 ペッパーパウダー
- 小さじ2の塩
- 玉ねぎ2個のみじん切り
- クローブ2個またはニンニクのみじん切り
- みじん切りにしたコリアンダー1個
- 沸騰したお湯2カップ
- 小さじ1のトマトピューレ
- レモン1個のジュース

方法:

- 玉ねぎを少量のオリーブオイルで2分間炒めます。にんにくを加えて炒める。
- クミン、コリアンダー、コショウを加え、2分間かき混ぜます。
- 火を強め、肉を加え、外側が焦げ目がつくまでかき混ぜる。
- 火を中火に弱め、肉が水に染み出るまで調理し、すべての水が蒸発するまで調理します。
- トマトピューレ小さじ1を加え、2分間調理します。
- 缶詰のトマトピューレと2カップの沸騰したお湯を加えます。
- ローリングボイルで3~5分間沸騰させてから、熱を可能な限り低い設定に下げてカバーします。
- 肉が柔らかくなるまで1.5~2時間加熱します。
- オクラを加え、中火で10~15分間調理します。
- コリアンダー、ライムジュース、塩を加えます。

オクラと羊肉のトマトソース



エジプトご飯と一緒に召し上がりください (ビーフン入り)

楽しみ!

チップ:

- ヨーグルトでラムキューブを1時間(冷蔵庫で最大1日)マリネして柔らかくすることができます。調理する前に洗い流してください。
- だろだろしたオクラが気に入らない場合は、オクラを2~3分間揚げて、肉汁に入れる前にしっかりと固まるようにします。
- 1.5時間経っても肉が少し固くても心配しないでください。肉汁が少し冷めたら、これは緩みます。

守ろう!オリーブの木を カンバのお願い



オリーブ畑再生基金の目的

土地を守ることは抵抗闘争である。
パレスチナの農民の土地を守る闘い、
生活を守る闘いを支援します。
集まった基金は、パレスチナ農業
労働委員会連合 (UAWC)に送ります。

郵便振替

記号番号: 00960-2-303500番
名称: オリーブの会 (オリーブノカイ)

他行等から振り込む場合

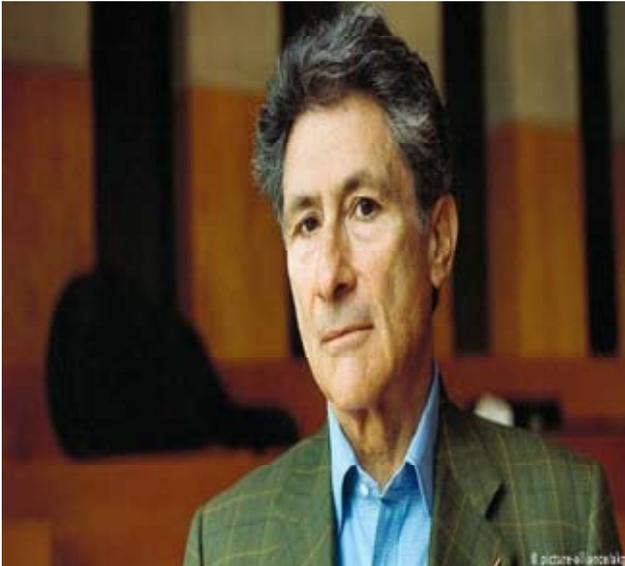
店名 (店番): 〇九九店 (099)
預金種目: 当座
口座番号 0303500



9月26日に釈放されハリダ・シャールさんは、娘スハさんの墓地を訪れた
イスラエルは、葬儀の際に彼女をu釈放しなかった



9月23日ファタハの獄中者指導者マルワン・バルグティは、自治政府
には権限はないと発言した



9月25日エドワード・サイド氏が亡くなって18年

今号の内容

シオニスト刑務所からの6人の脱獄・・・1
 彼らのモラルが彼らの自由よりも優れているとき・・・2
 オスロ合意は以前に調印されたが、現在も存在している政治的アプローチです・・・4
 起源に戻る・・・・・・・・・・5
 サブラ・シャティーラ虐殺39周年・・・・・・・・・・7
 第二次インティファダから21年目のパレスチナ・・・・・・・・8
 パレスチナ日誌3・・・・・・・・・・11
 パレスチナで愛される詩・・・・・・・・13
 パレスチナの詩・・・・・・・・・・14
 おいしいパレスチナ・・・・・・・・・・15



米国下院でラシダ氏らがイスラエルへの軍事援助に反対した



日本でプーマに対する抗議行動が行われた。世界各地でも同時に行われ